

自ら考え 自ら行動

# 避難所開設体験学習会



1

1 協力しながら段ボールを使って間仕切りやテーブルづくり

2 みんなで話し合いながら避難所運営ゲームを行う中学生たち



2

町内の中学2年生を対象にした避難所開設体験学習会（教育委員会・避難所開設体験学習会実施委員会主催）が8月4日、虻田小学校で開かれました。

同学習会は、有珠山噴火をはじめ、さまざまな災害に積極的に関わることでできる人材の育成や生きる力を育もうと3年前から実施しています。

4回目となる今回は、虻田、洞爺各中学校から44名が参加し、避難所体験の講話や避難所での居住スペースづくり、ゲームを通じた避難所運営を体験しました。

## 避難所での経験と

### 日頃からの心構え

初めに、洞爺湖有珠火山マスタターの荒町美紀さんが



講師の荒町さんの避難体験を聞く中学生たち

「避難所・避難生活について」と題して、2000年噴火の避難所生活で苦労した経験を語りました。

「辛い避難所生活の中で、お互いに助け合うこと」や「日頃から家庭で避難所の場所を確認しておくこと」など思いやりの心や日頃からの心構えの大切さを訴えました。

## 段ボールを使って 居住スペースづくり

講話の後、生徒たちは避難者役班6班と役場職員班1班に分かれ、役場職員班の指導の下、マットを敷いてから段ボールを使った間仕切りやテーブル、ベッドなどを作成しました。

テーブルづくりでは、皆さんの段ボールに囲まれながら、班ごとに工夫を凝らし、個性豊かなテーブルを完成させました。

## 自ら考えて行動する

避難生活における食事についても学びました。班ごとに数種類のお弁当が支給され、

## 避難所での 居住スペースを作ろう！



マットを敷いて避難所開設スタート



段ボールベッドを組み立てます



ベッド完成！実際に寝てみよう

## ゲームを通じて

### 避難所運営を体験

食物アレルギーなどに配慮しながら公平に分け合いました。役場職員役の生徒を中心に、ゴミの量を減らすため、お弁当の蓋と容器を分けて回収するなど自ら考えて行動することを実践していました。

午後からは避難所運営ゲーム「HUG（ハグ）」を使って、避難所の開設から運営までを体験しました。このゲームは、避難者の年齢や性別、それぞれが抱える事情が書かれたカードを避難所に見立てた平面図に配置し、避難所で起こるさまざまな問題にどう対応していくかを模擬体験す

るゲームです。生徒たちは、集まってくる避難者と次々に起こる問題に対し、みんな考え、話し合いながらゲームを進めていきました。

避難者役A班リーダーの大西浩生君（洞爺中）は「避難所生活での大変さを勉強することができた。災害時には、自分が何をできるのか冷静に判断して行動したい」と話しました。

実行委員長の大年智二洞爺中学校長は「成果のある学習会だった。今日の学習会以外にも、避難生活で大変なことはいの心を持ってほしい」と全体を評価しました。

## 虻田中学校

虻田中学校では、7月24日、25日の両日、ふるさと環境防災教育を実施しました。24日は、1年生（57人）を対象に西山山麓火口散策路を見学。25日には、2、3年生（2年37人・3年62人）が金比羅災害遺構散策路を見学し、有珠山の過去と現在を学びました。



マイスターの馬場さんから有くん火口の説明を受ける虻田中3年生

## 洞爺中学校

洞爺中学校では、8月23日、災害に対し、適切な意志決定や行動選択ができるようにすることなどを目的に、総合学習を実施しました。

この日は、2年生（7人）が、西山山麓火口散策路を歩き、地殻変動などを見学しながら、火山についての理解を深めました。



マイスターの阿部さんから西山山麓火口散策路の説明を受ける洞爺中2年生

## 防災教育

# 有珠山を知る